

医学教育分野別評価

神戸大学医学部医学科

年 次 報 告 書

2021 年度

評価受審年度 2018 年度

2021 年 8 月

神戸大学医学部医学科

はじめに

神戸大学医学部医学科は、2018 年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.2 に基づき評価された。しかし、2018 年 12 月 14 日付で文部科学省より「医学部医学科の入学者選抜における公正確保等に係る緊急調査」の最終まとめが公表され、日本医学教育評価機構により「6 緊急調査の結果②（訪問調査部分）」の記載について自己点検において重大な事実誤認があったと判断され、本医学科の認証はいったん「審議停止」とされた。神戸大学は、第三者委員会を設置して報告書を公表するなど社会的説明責任を果たすとともに、入学者選抜方法を見直しして 2019 年度入学者選抜を実施し、2019 年 6 月 25 日に文部科学省より「改善」と判断された。これをうけ、同年 7 月 8 日に日本医学教育評価機構による本医学部へのヒヤリングを経て、本医学部は医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.31 を基に関連する領域である領域 4.1 および 4.2 に関して医学部入学者選抜に関する改善報告書を同年 11 月 8 日に日本医学教育評価機構に提出、本学の医学教育分野別評価が再開された。2020 年 5 月 21 日付にて日本医学教育評価機構より評価報告書（最終版）が通知され、本医学科は医学教育分野別評価基準の認証期間として 2020 年 6 月 1 日から 2027 年 5 月 31 日までの 7 年間で正式に認定された。このたび、評価報告書（最終版）を踏まえ、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.33 に準拠し、本医学科医学教育に係る改善計画及び改善の進捗状況を評価し、2021 年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の指示に従い、2018 年 9 月 10 日から 14 日に行われた実地調査から 2021 年 3 月 31 日までの期間に行われたものを対象としている。

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
今後、使命と学修成果を見直す際には、教員だけでなく、職員や学生代表も議論に参加し、意見を反映させるべきである。	
改善状況	
教員に加えて、学生、他部局教員、外部委員、学務課職員が、教育研究・IR 委員会、カリキュラム評価委員会、カリキュラム策定運用委員会、医学教育改革諮問委員会に参加し、使命と学修成果の見直しする際に意見を反映させる体制を整備した。	
今後の計画	
教員に加えて、学生、他部局教員、外部委員、学務課職員が参加し、使命と学修成果の見直しを定期的に行なっていく。	
改善状況を示す根拠資料	
1.4-1 令和元年度 委員名簿（抜粋） 1.4-2 令和2年度 委員名簿（抜粋） 1.4-3 教育研究・IR 委員会内規 1.4-4 カリキュラム評価委員会内規 1.4-5 カリキュラム策定運用委員会内規 1.4-6 医学教育改革諮問委員会内規 1.4-7 平成30年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（2月27日） 1.4-8 令和元年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（7月16日） 1.4-9 令和2年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（9月30日） 1.4-10 令和元年度 カリキュラム評価委員会議事要旨（5月28日） 1.4-11 令和2年度 カリキュラム評価委員会議事要旨（10月29日） 1.4-12 令和元年度 カリキュラム策定運用委員会議事要旨（5月28日） 1.4-13 令和2年度 カリキュラム策定運用委員会議事要旨（11月27日）	

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
使命と学修成果の策定には、より広い範囲の教育の関係者が参加することが望まれる。	
改善状況	
より広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取する体制を整えるため、医療制度の利用者（模擬患者団体代表として岡山 SP の会等）を加える検討を開始した。	
今後の計画	
医療制度の利用者をカリキュラム策定運用委員会のメンバーに加えて、使命と学修成果の策定を定期的に行なっていく。	
改善状況を示す根拠資料	
1.4-1 令和元年度 委員名簿（抜粋） 1.4-2 令和2年度 委員名簿（抜粋） 1.4-3 教育研究・IR 委員会内規 1.4-4 カリキュラム評価委員会内規 1.4-5 カリキュラム策定運用委員会内規 1.4-6 医学教育改革諮問委員会内規 1.4-7 平成30年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（2月27日） 1.4-8 令和元年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（7月16日） 1.4-9 令和2年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（9月30日） 1.4-10 令和元年度 カリキュラム評価委員会議事要旨（5月28日） 1.4-11 令和2年度 カリキュラム評価委員会議事要旨（10月29日） 1.4-12 令和元年度 カリキュラム策定運用委員会議事要旨（5月28日） 1.4-13 令和2年度 カリキュラム策定運用委員会議事要旨（11月27日）	

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
アクティブラーニングをより充実すべきである。	
改善状況	
授業科目「コミュニケーション学」を1年次後期に新設し、学生がアクティブラーニングを促進するプログラムを新たに取り入れた。	
今後の計画	
R3年度2年次前期に継続して、「コミュニケーション学」を導入する。今後、医療倫理学、社会医学、医療法学のカリキュラムに新たにアクティブラーニングを取り入れる計画としている。	
改善状況を示す根拠資料	
2.1-1 令和2年度 コミュニケーション学シラバス	

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
行動科学においては、体系的な教育プログラムを構築し、実践すべきである。	
改善状況	
行動科学科目の体系化を行い、2020 年度 2 年次に新たに「行動科学」（1 単位）を導入した。	
今後の計画	
授業科目「行動科学」を開講し、内容の改善を図っていく。	
改善状況を示す根拠資料	
2.4-1 令和元年度 教務学生委員会議事要旨（1 月 8 日）	

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
時代に対応して体系的に行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学のカリキュラムを調整していくことが望まれる。	
改善状況	
R2 年度に、医療倫理学・社会医学・医療法学のワーキンググループを設置し、時代に対応した体系的なカリキュラムの議論を開始した。	
今後の計画	
医療倫理学・社会医学・医療法学については、社会情勢に応じてカリキュラム内容を調整していく。	
改善状況を示す根拠資料	
2.4-1 令和元年度 教務学生委員会議事要旨（1月8日）	
2.4-2 令和2年度 教務学生委員会議事要旨（10月7日）	
2.4-3 令和2年度 第1回 医療倫理 WG 議事メモ	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
重要な診療科における十分な実習期間を確保すべきである。 学生が経験すべき症例と臨床技能を明確にし、すべての学生が修得できるような臨床実習カリキュラムを定め実践すべきである。	
改善状況	
すべての学生が修得できるような臨床実習カリキュラムを定めるために、診療経験カードを配布して学生が経験すべき症候と臨床技能を明示し、診療経験カードを回収して実際にどの程度経験しているかを調査している。	
今後の計画	
・重要な診療科における十分な実習期間を確保するよう、現在BSL、関連病院実習、個別計画実習と3つのプログラムで実施している臨床実習について、カリキュラム見直しを進めていく。 ・診療経験カードの症候・臨床技能の経験状況を踏まえて、臨床カリキュラム内容を改善していく。	
改善状況を示す根拠資料	
2.5-1 平成30年度 第9回臨床系教育専門委員会議事要旨 2.5-2 令和元年度 第6回臨床系教育専門委員会議事要旨 2.5-3 令和元年度 第8回臨床系教育専門委員会議事要旨	

2. 教育プログラム	2.6 プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
基礎医学および臨床医学教育における水平的統合を、より推進することが望まれる。 基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的（連続的）統合を推進することが望まれる。	
改善状況	
・水平的統合として、R1 年度に、「遺伝学・臨床遺伝学」を見直し、腫瘍学の教育を組み込み、R2 年度より「遺伝学・腫瘍学」に改編し、実施している。 ・神経解剖学、神経生理学、神経化学、神経薬理学、臨床神経学を水平・垂直統合した「ニューロサイエンス」の新設に向けたワーキンググループを設置した。	
今後の計画	
R4 年度に「ニューロサイエンス」の開講に向けて議論を進める。	
改善状況を示す根拠資料	
2.4-2 令和2年度 教務学生委員会議事要旨（10月7日） 2.6-1 令和元年度 教務学生委員会議事要旨（10月2日） 2.6-2 平成31年度 入学者授業配当表 2.6-3 令和2年度 入学者授業配当表	

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
知識、技能および態度を含む評価を確実に実施すべきである。 学生の学修を促進するために、試験の適正な回数と内容を検証すべきである。 評価が担当教員以外の外部の専門家によって吟味される仕組みを構築すべきである。	
改善状況	
・基礎系科目では、小テストやレポートによる評価を導入し、多面的な評価が行えるようにした。 ・基礎配属実習では、中間評価として、知識、技能および態度を含む形成的評価を行うようにした。 ・BSL 後の科目別試験については、実施診療科の評価方法の選択により試験科目を減らし、科目別試験を課さない診療科は実習中の達成度で評価することとし、学生の負担を軽減した。 ・R2年度にすべての講義を、他の教職員が聴講し参考にできるようにした。	
今後の計画	
・マイルストーンを整備し、マイルストーンに沿った知識、技能および態度の評価方法を構築していく。 ・学生の学修を促進するために、引き続き試験の適正な回数と内容を検証していく。 ・各科目の評価法が担当教員以外の外部の専門家によって吟味される仕組みを構築していく。	
改善状況を示す根拠資料	
1. 4-11 令和2年度 カリキュラム評価委員会議事要旨（10月29日） 2. 4-1 令和元年度 教務学生委員会議事要旨（1月8日） 2. 5-2 令和元年度 第6回臨床系教育専門委員会議事要旨 2. 5-3 令和元年度 第8回臨床系教育専門委員会議事要旨 3. 1-1 令和元年度 基礎系教育専門委員会議事要旨 3. 1-2 令和元年度 第7回臨床系教育専門委員会議事要旨 3. 1-3 令和元年度 第9回臨床系教育専門委員会議事要旨 3. 1-7 令和2年度 教務学生委員会議事要旨（12月2日）	

3. 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。	
改善状況	
・秀・優・良・可の割合の適正化を図り、秀の割合が 10%程度、秀＋優の割合が 40%程度になるように各分野に指導を行い、医学科会議で各科目の秀・優・良・可の割合について明示している。 ・卒業試験については、H30 年度から正解を開示し、学生の疑義申し立て期間を設けて、評価方法の信頼性の改善を図り、妥当性については、CBT・卒業試験・国家試験成績（自己採点）の 3 者の比較を開始した。 ・R2 年度に、学修評価についての専門家による FD を行い、教員が学修評価に理解を深める機会とした。 ・授業振り返りアンケート（授業コーディネータ）を作成し、試行的に実施した。	
今後の計画	
教員各自が授業振り返りアンケート（授業コーディネータ）により、学修評価の方法を再点検し、より妥当性や信頼性の優れた評価ができるよう促進していく。教育研究 IR 委員会にて、各科目の学修評価方法を集計し、分析する仕組みを作る。	
改善状況を示す根拠資料	
1. 4-9 令和 2 年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（9 月 30 日） 3. 1-4 令和元年度 卒業試験専門委員会議事要旨（7 月 3 日） 3. 1-5 令和元年度 教務学生委員会議事要旨（9 月 4 日） 3. 1-6 令和元年度 医学科会議議事要録（1 月 22 日） 3. 1-8 授業振り返りアンケート（授業コーディネーター） 3. 1-9 第 7 回神戸大学医学部教授による医学教育ワークショップ	

3. 学生の評価	3.2 評価と学習との関連
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
目標とする学修成果を学生が達成していることを組織的に評価する仕組みを作るべきである。	
目標とする学修成果を全学生が達成するために形成的評価を活用すべきである。	
改善状況	
・評価のためのマイルストーンとロードマップを作成し、評価法と組み合わせ組織的に評価する仕組みを作ることとした。 ・2年次「基礎配属実習」、5年次「関連病院実習」、6年次「個別計画実習」における形成的評価を全員に実施している。	
今後の計画	
・ロードマップの整備を通して組織的に評価する仕組みを作っていく。 ・ログブックを導入し、形成的評価の機会を全学年にわたって増やしていく。	
改善状況を示す根拠資料	
3.2-1 令和元年度 教務学生委員会議事要旨（7月18日）	
3.2-2 ルーブリック評価に関する資料	

3. 学生の評価	3.2 評価と学習との関連
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
カリキュラム単位ごとに評価結果に基づいたフィードバックを行い、学修成果の達成に向かって学修意欲を促進することが望まれる。 臨床実習において、mini-CEX、360 度評価、ポートフォリオなどを利用したパフォーマンス評価を充実し、臨床実習期間全体を通して適切なフィードバックを行う体制を構築することが望まれる。	
改善状況	
R1 年度よりルーブリックによる形成的評価を、基礎配属実習、BSL、関連病院実習にて行うようにした。	
今後の計画	
カリキュラム単位ごとに評価結果に基づいたフィードバックを行い、学修成果の達成に向かって学修意欲を促進する方法として、臨床実習において、mini-CEX、ポートフォリオの導入を検討していく。	
改善状況を示す根拠資料	
3.2-2 ルーブリック評価に関する資料	

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学修上の問題に対するカウンセリング制度とその体制を充実すべきである。 社会的、経済的、および個人的事情に対応した学生支援プログラムを充実すべきである。	
改善状況	
・ R1 年度からシラバスに教務学生委員会学年担当委員を掲載し、必要に応じてカウンセリングを行う体制を整え、成績不良学生に対しては、年 2 回のカウンセリングを行うこととした。 ・ R2 年度に、社会的、経済的、および個人的事情に対応するために、悩み相談窓口を設置し、教員・職員が学生の質問に答えたり、学生の個人的事項に対応している。	
今後の計画	
R1, R2 年度に創設したカウンセリング制度の体制の維持・充実を図っていく。	
改善状況を示す根拠資料	
4.3-1 サポート窓口（シラバス抜粋） 4.3-2 うりぼーネット悩み相談（授業、実習） 4.3-3 うりぼーネット悩み相談（生活、進路） 4.3-4 医学部医学科悩み相談窓口 4.3-5 カウンセリング資料	

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
全学生に対して、評価結果に基づいた経時的な学修上のカウンセリングを実施することが望まれる。	
改善状況	
R2 年度に、CBT 成績不良者については、学年担当教務委員や、5，6 年ではチューターが継続的に学修指導を行う仕組みを作った。	
今後の計画	
全学生に対して、チューター制度を整備し、評価結果に基づいた経時的な学修上のカウンセリングを実施できるよう、体制を整えていく。	
改善状況を示す根拠資料	
1. 4-9 令和 2 年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（9 月 30 日） 2. 4-2 令和 2 年度 教務学生委員会議事要旨（10 月 7 日） 4. 3-1 サポート窓口（シラバス抜粋） 4. 3-2 うりぼーネット悩み相談（授業、実習） 4. 3-3 うりぼーネット悩み相談（生活、進路） 4. 3-4 医学部医学科悩み相談窓口 4. 3-5 カウンセリング資料	

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
教員に対する教育能力開発をより充実させ、全教員の教育への理解を推進すべきである。	
改善状況	
教授会 FD、臨床教育 FD に加えて、新任教員 FD を実施している。	
今後の計画	
基礎系教育 FD、e-learning による FD の実施など全教員に対する FD を検討する。	
改善状況を示す根拠資料	
5.2-1 令和 2 年度 新任教員の医学教育 FD	

6. 教育資源	6.1 施設・設備
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
学生用の自習スペースは不足しており、自習スペースを整備すべきである。	
改善状況	
自習スペースとしてキャリアカフェを設置した。	
今後の計画	
医学部施設再整備の際には、ラーニングコモンズや自習室の整備を含める。	
改善状況を示す根拠資料	
6.1-1 キャリアカフェの設置	

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
学内外の指導医に対する FD をさらに推進し、指導力の養成を図るべきである。	
改善状況	
R1 年度より関連病院の指導医 FD を年 2 回実施した。	
今後の計画	
関連病院指導医との連携を密にするため、指導医 FD のさらなる充実を検討し、関連病院指導医の PostCC-OSCE の外部評価者への参加を促していく。	
改善状況を示す根拠資料	
6.2-1 令和 2 年度 関連病院指導医 FD 資料	

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
「神戸大学 BEEF」の活用の促進、およびインターネット環境のさらなる改善が望まれる。 学生が正規の電子カルテに記載できることが望まれる。	
改善状況	
・ R1 年度に BEEF の FD、学生のカルテ記入の他大学導入例を紹介する FD を実施した。 ・ R2 年度から全科目が BEEF に対応した授業・実習を運営し、遠隔授業を取り入れている。	
今後の計画	
学生が正規の電子カルテに記載でき、医療スタッフが閲覧できるよう整備していく。	
改善状況を示す根拠資料	
6.3-1 Webex オンライン講義マニュアル（表紙及び目次） 6.3-2 Zoom 操作マニュアル（表紙） 6.3-3 第 6 回神戸大学医学部教授による医学教育ワークショップ 6.3-4 神戸大学学修管理システム（BEEF）に関する FD	

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生の学修成果をカリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩の視点から、データを収集し、現行のカリキュラムの課題を特定し対応すべきである。	
改善状況	
・教育研究・IR 委員会は、学生の学修成果をカリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩の視点から、授業振り返りアンケート、臨床医学講義の講義評価、チュートリアルアンケート、BSL 評価、個別計画実習病院別評価表及び関連病院実習学生アンケートの項目を見直し、データを収集するとともに、現行のカリキュラムの課題を特定する作業を開始した。 ・教員に加えて、学修委員がカリキュラム評価委員会に参加し、現行のカリキュラムの課題等について意見交換を行い、改善を図った。	
今後の計画	
教育研究・IR 委員会が収集したデータの分析及びカリキュラムの評価を行い、その結果をもとに、カリキュラム策定運用委員会にて、現行のカリキュラムの課題を特定し対応していく。	
改善状況を示す根拠資料	
1.4-9 令和2年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（9月30日） 1.4-10 令和元年度 カリキュラム評価委員会議事要旨（5月28日） 1.4-11 令和2年度 カリキュラム評価委員会議事要旨（10月29日） 1.4-12 令和元年度 カリキュラム策定運用委員会議事要旨（5月28日） 1.4-13 令和2年度 カリキュラム策定運用委員会議事要旨（11月27日）	

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果、社会的責任の視点で定期的にプログラムを包括的に評価することが望まれる。	
改善状況	
定期的にプログラムを包括的に評価するために、就職先（初期研修先）へのアンケート調査を拡大して実施するとともに、大学院入学者・新任教員への学修成果に関するアンケートを実施し、分析を開始した。	
今後の計画	
マイルストーンとその評価法を含むロードマップを完成させ、学修成果を評価する。	
改善状況を示す根拠資料	
1.4-11 令和2年度 カリキュラム評価委員会議事要旨（10月29日） 7.1-1 令和元年度 就職先機関インタビュー 7.1-2 令和2年度 大学院入学時アンケート（神戸大学出身者のみ） 7.1-3 令和2年度 医学部教育に関するアンケート（新任教員）	

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生からのフィードバックは、主に授業評価にとどまっており、卒業試験アンケートもカリキュラムアンケートになっていない、1年次から6年次に至るプログラム構成（目標、方略、評価を含む）について、その改善に資するような情報をフィードバックとして受けるべきである。 教員からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。	
改善状況	
・教員に加えて、学修委員がカリキュラム策定運用委員会、カリキュラム評価委員会に参加し、事前に学生から提出のあった各学年のカリキュラムへの意見をもとに、現行のカリキュラムの課題等について意見交換を行い、改善を図っている。 ・教員からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応するために、担当科目が終了するごとに、授業振り返りアンケート（授業コーディネータ）を作成し、試行的に実施した。	
今後の計画	
・1年次から6年次に至るプログラム構成（目標、方略、評価を含む）について、その改善に資するような情報がフィードバックされるよう、学年ごとにアンケートを実施する。 ・授業振り返りアンケート（授業コーディネータ）をブラッシュアップし、定常的に実施する。 ・各種アンケートの電子化によるフィードバックの迅速化を図る。	
改善状況を示す根拠資料	
1.4-9 令和2年度 教育研究・IR委員会議事要旨（9月30日） 1.4-10 令和元年度 カリキュラム評価委員会議事要旨（5月28日） 1.4-11 令和2年度 カリキュラム評価委員会議事要旨（10月29日） 1.4-12 令和元年度 カリキュラム策定運用委員会議事要旨（5月28日） 1.4-13 令和2年度 カリキュラム策定運用委員会議事要旨（11月27日） 3.1-8 授業振り返りアンケート（授業コーディネーター）	

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
フィードバックを受けてプログラムを開発する仕組みはあるが、フィードバックが十分ではなく、プログラム改善に至っていない。学生、教員、社会から、それぞれのニーズを把握し、分析、評価して、プログラム開発につなげることが望まれる。	
改善状況	
R2 年度より、教育研究・IR 委員会が、卒業時コンピテンスに照らし合わせて、卒業試験アンケートの見直し、授業振り返りアンケートの医学科独自項目の追加、学年ごとの年度末アンケートの実施を行い、カリキュラム評価委員会、医学科会議にフィードバックする体制を整えた。	
今後の計画	
教育研究・IR 委員会がアンケート集計結果と分析結果を、カリキュラム策定運用委員会等の教学系委員会や教授会のほか、関連病院等実習専門委員会、関連病院の指導医 FD 及び関係病院長会議にて報告を行い、外部、社会からのフィードバック体制を整える。	
改善状況を示す根拠資料	
1.4-7 平成 30 年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（2 月 27 日）	
1.4-8 令和元年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（7 月 16 日）	
1.4-9 令和 2 年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（9 月 30 日）	

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生ならびに卒業生の実績に関する情報を系統的に収集・分析し、使命と期待される学修成果に沿った人材が育成されているかを検討し、プログラムの改善に利用すべきである。	
改善状況	
教育研究・IR 委員会が、学部学生に関するデータ、卒業生に関するデータの項目を設定し、収集を開始した。	
今後の計画	
教育研究・IR 委員会が卒業後の進路と学部時代の成績の関連性等を分析し、プログラムの成果を判断すると共に、プログラムの改善を図る。また、卒前から卒後にわたり可能な限り追跡調査を実施し、よい人材のロールモデルを多く作るための情報収集を行い、それを教育にフィードバックし、プログラムの改善を図る。	
改善状況を示す根拠資料	
1.4-7 平成 30 年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（2 月 27 日） 1.4-8 令和元年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（7 月 16 日） 1.4-9 令和 2 年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（9 月 30 日） 7.1-1 令和元年度 就職先機関インタビュー 7.1-2 令和 2 年度 大学院入学時アンケート（神戸大学出身者のみ） 7-1-3 令和 2 年度 医学部教育に関するアンケート（新任教員）	

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
学生と卒業生の背景と状況に関する実績を分析することが望まれる。 学生の実績を分析し、その解析結果を学生選抜、カリキュラム立案や学生支援に関わる委員会にフィードバックすることが望まれる。	
改善状況	
教育研究・IR 委員会が、入学者 PROG テスト及び入学時アンケートの実施及び分析を開始した。	
今後の計画	
教育研究・IR 委員会が収集、分析したデータをカリキュラム策定運用委員会、教務学生委員会及び入学システム検討委員会にフィードバックし、学生選抜、カリキュラムや学生支援の改善を図っていく。	
改善状況を示す根拠資料	
1.4-7 平成 30 年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（2 月 27 日） 1.4-8 令和元年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（7 月 16 日） 1.4-9 令和 2 年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（9 月 30 日） 7.3-1 令和元年度 入学者 PROG テスト及び入学時アンケート（本編） 7.3-2 令和元年度 入学者 PROG テスト及び入学時アンケート（付録） 7.3-3 令和 2 年度 入学者 PROG テスト及び入学時アンケート	

7. プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
他の関連する教育の関係者に、課程ならびにプログラムの評価結果を基に、フィードバックを求めることが望まれる。	
改善状況	
教員に加えて、他部局教員、外部委員が、カリキュラム評価委員会、カリキュラム策定運用委員会、医学教育改革諮問委員会に参加し、教育研究・IR 委員会による課程ならびにプログラムの評価結果を基にフィードバックできる体制を整備した。	
今後の計画	
教員に加えて、他部局教員、外部委員が参加し、プログラムの評価と見直しを定期的に行なっていく。	
改善状況を示す根拠資料	
1.4-1 令和元年度 委員名簿（抜粋） 1.4-2 令和2年度 委員名簿（抜粋） 1.4-3 教育研究・IR 委員会内規 1.4-4 カリキュラム評価委員会内規 1.4-5 カリキュラム策定運用委員会内規 1.4-6 医学教育改革諮問委員会内規 1.4-7 平成30年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（2月27日） 1.4-8 令和元年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（7月16日） 1.4-9 令和2年度 教育研究・IR 委員会議事要旨（9月30日） 1.4-10 令和元年度 カリキュラム評価委員会議事要旨（5月28日） 1.4-11 令和2年度 カリキュラム評価委員会議事要旨（10月29日） 1.4-12 令和元年度 カリキュラム策定運用委員会議事要旨（5月28日） 1.4-13 令和2年度 カリキュラム策定運用委員会議事要旨（11月27日）	

8. 統括および管理運営	8.4 事務と運営
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
教育の改革を推進するために、教学に関わる事務を含めた組織の支援体制を強化すべきである。	
改善状況	
教育の改革を推進するために、定期的に医学教育学分野、各種教育関連委員会の位置付けや業務の見直しを行うと共に、それを支援する事務体制の見直しを行い、組織の支援体制の強化を図っている。	
今後の計画	
効率的に教育改革を進めるため、引き続き定期的に組織の支援体制の見直し、強化を図っていく。	
改善状況を示す根拠資料	
8.4-1 医学科教育関係委員会の構成	

9. 継続的改良	
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
教育研究・IR 委員会、カリキュラム評価委員会、医学教育改革諮問委員会等の活動の充実を図り、継続的な改良を進めるべきである。	
改善状況	
定期的に教育研究・IR 委員会、カリキュラム評価委員会、医学教育改革諮問委員会等の活動状況に基づいた各種委員会の位置付けや業務の見直しを行い、継続的改良を進めている。	
今後の計画	
引き続き定期的に教育研究・IR 委員会、医学教育改革諮問委員会等の位置付けや業務の見直しを行い、カリキュラム評価委員会と教育研究・IR 委員会を統合するとともに、医学教育改革諮問委員会の委員を外部の医学教育の専門家に依頼し、医学科長の直下に位置付け、継続的改良を推進する。	
改善状況を示す根拠資料	
8.4-1 医学科教育関係委員会の構成	